

# LCAを活用したあらゆる製品・ サービス・事業のCO<sub>2</sub>の見える化！

## 製品・事業LCA (LifeCycleAssessment) 算定コンサルティング

詳しいご内容・お打ち合わせをご希望の場合は、  
下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先：  
株式会社日本能率協会コンサルティング  
ビジネスイノベーション本部

お問い合わせフォーム：<https://www.jmac.co.jp/inquiry/reply/contact.html>  
お問い合わせ番号：03-4531-4307



お問い合わせフォーム

## このような課題はありませんか？

- 製品CFP(カーボンフットプリント)を明らかにし、どこがホットスポットか明確にしたい
- 自社製品のCO<sub>2</sub>優位性を社外にアピールしたい
- 顧客から自社製品のCO<sub>2</sub>排出原単位の提示を求められている
- IDEAや環境省の原単位データベースに適した原単位が見当たらない
- 自社の製品・サービスによる、社会のCO<sub>2</sub>削減貢献量(スコープ4)の算定を行いたい
- 製品開発・設計プロセスにLCA評価の仕組みを組み込みたい



LCAを活用したあらゆる製品・  
サービス・事業のCO<sub>2</sub>の見える化！

JMACは20年以上のLCA関連コンサルティングの実績を持ち、2000年頃のエコリーフ環境ラベルや2010年頃のカーボンフットプリントコミュニケーションラベルなどの制度立ち上げにも関与したLCAのプロ集団です。

### JMACの 特徴

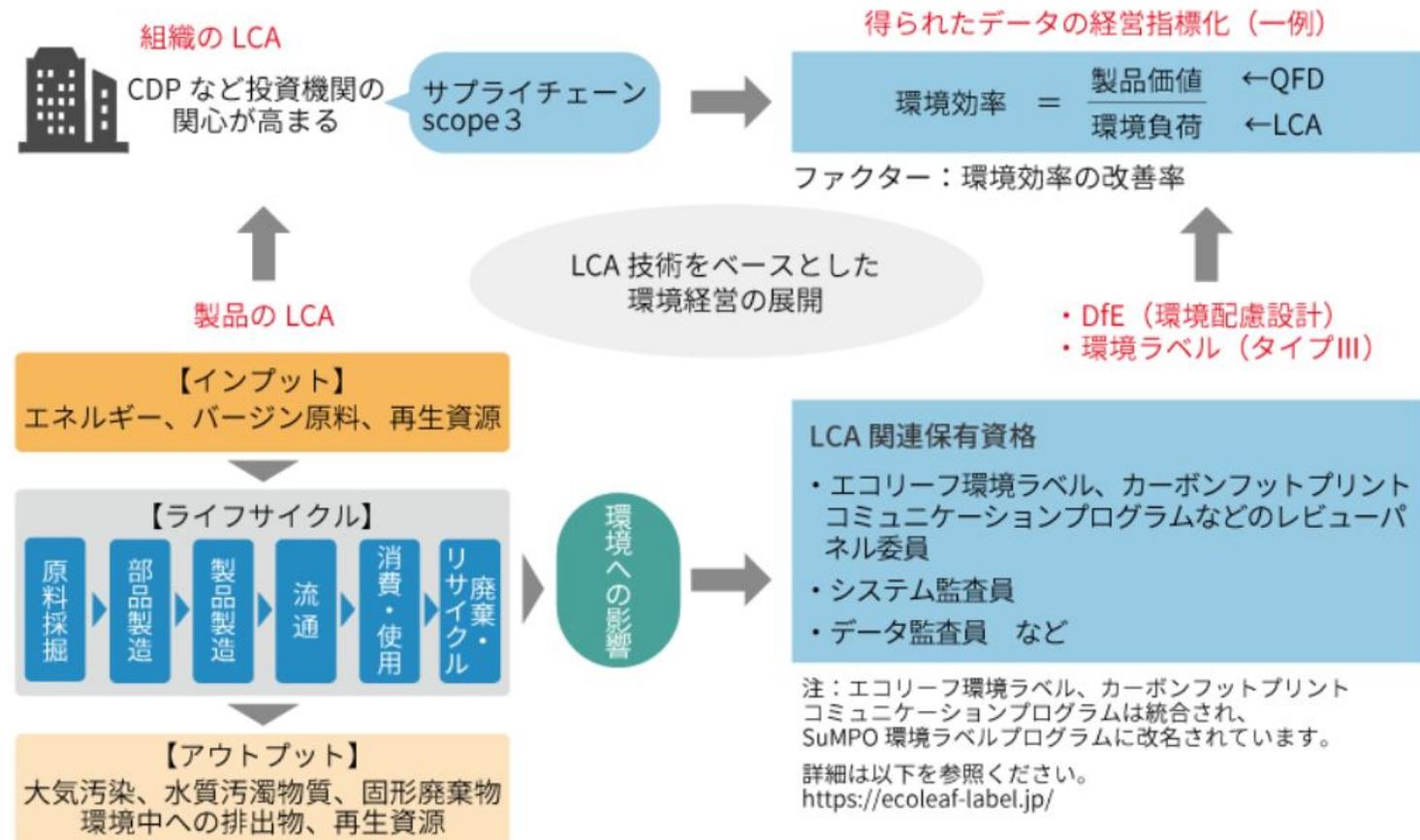
製品LCA(製品CFP)の算定において、時に企業の悩みの種となるIDEAや環境省原単位データベースなどに適した原単位が存在しない場合の対応のご支援も充実しています。また顧客から製品の排出原単位の提示を求められる状況も増えており、容易に製品原単位の算定を行うご支援もいたします。

単に製品LCA算定だけでなく、経営コンサルティングファームとしてLCA技術を活用した環境経営支援も行います。例えば以下のようなコンサルティングも対応可能です。

- 全製品のLCA評価を行うため、製品開発段階におけるLCA評価の仕組み化
- 環境効率指標などLCAを活用した全社環境経営指標設定と中長期目標設定
- 既存製品/新製品又は既存事業/新事業におけるスコープ4排出量(世の中のCO<sub>2</sub>削減貢献量)の算定・開示

# JMACのコンサルティングの特徴

JMACの特長：認められたLCA専門技術とそれを使った経営指標化



対象  
部門

全業種(あらゆる製品、サービス、事業)に対応可能

# コンサルティングの進め方

貴社のニーズを伺ったうえで具体的なコンサルティング内容を設計します。  
以下に製品LCA算定コンサルティングステップの一例を示します。

① LCA基本事項の設定	<ul style="list-style-type: none"><li>● 目的の明確化</li><li>● 対象製品の選定</li><li>● 推進詳細計画</li></ul>
② CFP算定教育	<ul style="list-style-type: none"><li>● LCA、カーボンフットプリントなどの算定に関する基本情報の共有化</li></ul>
③ PCRの作成	<ul style="list-style-type: none"><li>● ライフサイクル段階の定義とライフサイクルフロー図の作成</li><li>● ライフサイクル段階ごとの算定ルール検討 (活動量データ収集対象、活動量データ収集方法、原単位、カットオフルール、算定シナリオなど)</li></ul>
④ LCA算定準備	<ul style="list-style-type: none"><li>● CFP算定シート作成</li><li>● 必要な活動量データ収集準備</li></ul>
⑤ データ収集・CO <sub>2</sub> 原単位設定・CFP算定	<ul style="list-style-type: none"><li>● 活動量データの収集/確認</li><li>● CO<sub>2</sub>排出原単位の設定</li><li>● CFP計算実施</li></ul> <p>必要に応じて原単位の作りこみ</p>
⑥ LCA結果のまとめ・今後の展開検討	<ul style="list-style-type: none"><li>● CFP計算結果の考察</li><li>● CFP計算結果のまとめ</li></ul>

## Case①

業界	機械製造業
会社プロフィール	異なる製品事業部をもつ日本を代表する大手機械製造企業
テーマ	製品LCAから開発段階へのLCA評価の仕組み化
背景	同社では中期サステナビリティビジョンの中で「製品ライフサイクルのCO <sub>2</sub> 削減」をうたっておりLCAの実施が必須であるが、具体的にどのように推進してよいか悩み、相談があった。ある事業部のモデル製品で製品LCA算定をスタートし、その後も引き続きご依頼があり、他の事業部へも展開し、最終的には全7事業部における新製品開発プロセスにLCA評価を組み込む仕組み化、全社製品環境効率目標の設定などを完遂した。
取り組み内容	1年目 ● 全7事業部に対するLCA教育 ● 1事業部のモデル製品においてLCA算定実践 ● LCAの実務を学ぶ 2年目 ● 3事業部のモデル製品においてLCA実践 ● LCA推進マニュアル作成 3年目 ● 残りの3事業部のモデル製品においてLCA実践 4年目 ● 新製品開発におけるLCA評価システムの導入 ● DR(デザインレビュー)時におけるLCA評価の仕組み策定 ● 環境貢献製品の定義、評価指標、LCA経営目標などの設定

## Case②

業界	教育機関
会社プロフィール	国立大学法人
テーマ	超高耐熱バイオマスプラスチックによるGHG削減貢献量算定(素材変更によるスコープ4排出量算定)
背景	同大学が開発した超高耐熱バイオマスプラスチック素材(以下新素材)が自動車部品に代替した場合の日本におけるCO <sub>2</sub> 削減貢献量を算定する環境省の3ヵ年事業が立ち上がり、CO <sub>2</sub> 削減貢献量算定を依頼された。
取り組み内容	<p>1年目</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● エンジン回りのアルミや鉄の部品を複数選定(比較対象品)し、そのライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>排出量の算定(LCA評価)</li><li>● 新素材の開発における詳細な実験室データを収集し、原材料調達段階のCO<sub>2</sub>排出量の詳細算定実施</li><li>● 評価対象品と比較対象品とのLCA計算結果の差から削減貢献量を算定</li></ul> <p>2年目</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 新素材の開発プロセスを脱炭素型に変更することでCO<sub>2</sub>削減を図り、更に自動車部品に適用する上での物性面での技術的な課題を整理</li></ul> <p>3年目</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 次世代自動車(ハイブリッドや電機自動車)向けの実現可能性の高い部品への適用検討</li><li>● 日本全体における削減貢献量算定</li><li>● 環境省や事業評価委員会から一定の評価を得た</li></ul>

その他の実績: 化学、産業機械、土木建築、自動車部品、通信機器、印刷、物流、教育機関、娯楽・サービス など

## 面談

貴社課題について理解し、JMACのアプローチの説明、ご提案の方向性についてご相談します。  
必要に応じて、NDAをご準備します。  
現場視察により理解を深めさせていただく場合もございます。

## 提案

お打ち合わせ内容を踏まえて、貴社課題に添ったコンサルティング計画提案書をご提示させていただきます。

## 契約

JMACご提案を採用いただきましたら、業務委託契約書の締結準備をさせていただきます。

## 実施

コンサルティングを実施スタートいたします。  
キックオフを経て、

- 現状分析
- 関係者ミーティング
- 改善支援
- 推進報告会

を実施しながら課題解決に努めます。

お問い合わせ先：  
株式会社日本能率協会コンサルティング  
ビジネスイノベーション本部

お問い合わせフォーム：<https://www.jmac.co.jp/inquiry/reply/contact.html>  
お問い合わせ電話番号：03-4531-4307